

純北海道産ワインを香港をはじめとしたアジア地域へ輸出 (北海道ワイン 株式会社)

会社概要(平成23年8月現在)

- 所在地:北海道小樽市朝里川温泉1-130
- 代表者: 嶋村 彰禧
- 資本金:4億4,689万円
- 売上高:17億7,141万円
- 従業員数:80名
- URL:<http://www.hokkaidowine.com/>

①事業概要

<ワイン、地ビール発泡酒製造・販売>

嶋村彰禧(現・北海道ワイン(株)代表取締役)は、ヨーロッパのワイン専用種葡萄の栽培が、大陸性気候である北海道でも可能と考え、昭和47年に土地45haの開拓とセイベル種のテスト栽培を開始した。昭和49年1月には、欧州系ワイン専用葡萄を原料とした、純粋な国産ワインの醸造を目的として会社を設立した。

現在、同社のワインは100%北海道原料で製造され、従来の海外産のワインにはないフルーティーな味わいがあるとの評価を得ている。

②海外展開概要

<香港、東南アジアへの販路開拓>

同社では、アジア地域の消費者の嗜好は、日本のそれに比較的近いことから、適正な価格で供給できればマーケットとして有望だと考え、輸出に取り組むこととした。

アジア地域の中で香港は関税がかからないなど輸入のハードルが低いことから、香港をターゲットとして平成20年から現地商談会に参加。

平成21年「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア」のワインコンペティションの銅賞受賞などで海外市場での知名度を上昇させた結果、平成22年には香港、マレーシアでの販路開拓に結びつけた。

現在、東南アジアを中心としたマーケット拡大に向け事業を展開中である。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

平成20年の香港での商談会参加を契機にジェットロの輸出有望案件発掘支援事業の活用を奨められ、平成21年に、ジェットロ専門家から大手コンビニチェーンを紹介された。同社は、香港で幅広い販売ネットワークを有している企業であり、北海道ワインにとっての有力なパートナーと成り得るとの判断から同社と商談を進めることとした。

契約交渉では、当初、英文メールでのやり取りに不慣れであったため、契約内容、英文のチェックをジェットロ専門家をお願いしたことが、商談の成立につながった。この経験がその後の海外企業との契約交渉に役立っており、現在では自社で対応可能なレベルになった。

同社の成功の秘訣は、関税がかからない香港をターゲットとしたことで、販売価格の低減を実現したこと、商談会に継続的に参加して知名度を上げたこと。加えてジェットロなどの支援制度の活用を積極的にしたことにある。

④今後の事業展開について

同社は、東南アジアへの市場展開を進めており、平成24年にはシンガポールとタイを輸出先に加え、7カ国・地域に展開。同年6月には「ナイアガラ」、「ケルナー」などの品種を使うワインで、英語と漢字で北海道産を説明するラベルを貼った海外向けの商品を出荷。アジアで人気の北海道ブランドを前面に打ち出し、1~2年後には輸出額を現在の3倍にあたる3,000万円に増やす予定。



(平成24年10月現在)

データ出所:北海道経済産業局